

山口

アクシス
古田 陽介 社長

一番の 相談相手になる。

広島

茶の環
大淵 馨 社長

山口FGは、お客さまのお話を
伺うことを第一に、
お客さまの一番の相談相手に
なりたいと思っています。
一つひとつの対話を重ねながら、
共に未来へ歩みつつける
お客さまをご紹介します。



北九州

熱産ヒート
川口 千恵子 社長

ア ク シ ス

山
口
(山口県下関市菊川町)

古
田
陽
介
社
長



1.アクシスが導入したファイバーレーザー複合機。2.加工面を波型にすることで強度が増す自動溶接機 3.鉄道車輛の運転席部分
4.アクシスの3信条

一人ひとりがプロフェッショナル——。

アクシスは新幹線の車輛や半導体部品などの
板金溶接加工を主に手がけています。

創業は2000年ですが、

古田社長の祖父が興した「フルタ製作所」のころから、
アルミニウムやステンレス、ニッケル、銅など

「非鉄」金属の加工を中心に取り組み、

その技術力は、業界でも高い評価を受けています。

「非鉄」を扱う仕事

新幹線車輛の屋根のパンタグラフ
は集電装置。架線に接することで、電
気を取り入れています。屋根に段差
やゆがみがあると、風の抵抗を受け、
騒音の原因にもなってしまうことか
ら、屋根部分に使われるアルミニウ
ムの溶接加工は、精緻な技術が要求
されるそうです。

会社の信条は「信、無常、力人」。
ちからびと

「信」は「社内だけでなく、社外から

も信用、信頼される会社」というこ
とです。「無常」は「儚い」ではなく、

「今日と全く同じ明日がないように、
同じように見えるものも常に不安定

な状態なので、その変化に適応しな
ければならない」という意味と言
います。扱う「非鉄」金属も、気候の変
化や湿度の高低などを考慮せずに加
工すると、ひずみなどの欠陥が出て
しまいます。精密な部品を作り続け
るためにも「常は無い」と言い聞かせ
ているそうです。

「力人」には、それぞれが力を持つ



5.6.「うちの社員は一人ひとりが、確かな技術と責任感を持ち働いています」と語る古田社長 7.8.9.アクシスの非鉄金属加工技術は、社員の技術と最新の設備で日々培われている。

たプロフェッショナルであってほしいという思いが込められています。古田社長は「従業員は全員が正社員です。研修や対話を通じ、一人ひとりが責任感と高い能力を持つ社員に育っています」と胸を張ります。

いち早い情報で、挑戦

アクシスは今回、ファイバーレーザー複合機を購入しました。銅など熱伝導率が高い素材を加工する場合、従来のレーザーでは熱の力が分散し、加工した面が粗くなるなどしていました。ファイバーレーザーは熱の力が分散されず、加工の速度は格段に上がり、加工面もきれいな仕上がりになります。

それだけに価格も高額ですが、購入するきっかけの一つになったのは、山口銀行今浦支店の高尾茂雄支店長(当時)から、政府の「戦略産業雇用創造プロジェクト関連融資利子補給制度」を教えてもらったことだと言います。

古田社長は「制度をいち早く教えてもらったうえ、新規の取引先まで紹介していただきました。今後は航空機の分野への進出を考えています。70年間にわたって培ってきた『非鉄金属加工』の技術が、より軽量化を

求められる航空機業界にも活かせる」と確信しています。多くの情報が集まる山口フィナンシャルグループの強みを生かした情報提供をこれからも期待しています」と語りました。



Company profile

株式会社アクシス

【創業】2000年

【住所】山口県下関市菊川町日新1142-1

【ホームページ】

www.axs-jp.com



「6月に着任した岡本支店長にも、多くの情報提供を期待しています」(左から古田社長、山口銀行今浦支店岡本支店長)

茶の環^わ

広島

(広島県広島市中区紙屋町)

大淵 馨 社長



1.看板商品「しっとり仕立ての贅沢抹茶満月」1,600円(税抜)。濃厚な抹茶の香りが口中に広がる。

茶の環は抹茶スイーツの専門店。
広島市中区の本店のほか、
東京、広島の百貨店などに3店舗あります。
代表者の大淵社長は1988年生まれ。
若き社長を中心に、
人の「環」が広がり続けています。

素材と製法へのこだわり

茶の環がオープンしたのは2006年。大淵社長の祖父が1955年に始めた茶舗「お茶の駿河園」で扱っていた抹茶を、気軽に楽しめるようにという思いがきっかけでした。

市販の抹茶菓子の多くは、独特の香りや緑色を鮮やかに出すため、製菓材料の抹茶ペーストなどを加えています。茶の環ではなるべく着色料に頼らず、抹茶だけで仕上げています。

一番のおすすめは、高級抹茶を使ったホールケーキ「しっとり仕立

ての贅沢抹茶満月」。焼き色は黄金色。切った断面は抹茶の緑色が鮮やかです。抹茶、バター、砂糖、卵、はちみつ、割合も工夫し、試行錯誤の末、見た目もよく、口当たりがまろやかなバターケーキに仕上げたそうです。

茶の環で使用する抹茶は、茶鑑定士の森田治秀氏にブランドを依頼しています。森田氏は、全国からお茶のプロが集結し技術を競い合う全国茶審査技術大会で、3度も日本一に輝いたことがある名匠。

それぞれの商品ごとに、最適な色や香りが出る「こだわりの配合」をしております。



4



2



5



3

2.「本物の抹茶の味をより多くの人々に伝えたい」と大淵社長 3.こだわりの素材で作られた茶の環のお菓子。左から「熟練パティシエの黄金抹茶フィナンシェ」239円(税抜)、「宇治抹茶畑からの年輪バウム」239円(税抜)、「抹茶もみじ饅頭」145円(税抜) 4.夏季限定で味わえる「抹茶氷ぜんざい」680円(税抜)。削った氷に、抹茶を練りこむように手早く混ぜ合わせる。 5.持ち帰りスイーツが購入できる茶の環本店1階は黒を基調としたシックな雰囲気。

抹茶本来の味を身近に

茶の環は、日本国内のほか、香港、台湾、タイなどアジア圏だけでなく、日本文化に関心の高いフランスでも抹茶スイーツの販売を行っています。大淵社長は「今後は、フランスだけでなく、欧州各国、アメリカでも、抹茶のお菓子のすばらしさを知ってほしい」と話します。

さらに、日本人でも知る機会の少ない抹茶や抹茶スイーツについての知識や情報を広めるため、店頭での説明だけでなく、お菓子に使われている量の抹茶の粉を、小皿に盛り、お菓子と並べて展示するなどの工夫をしています。

人と人がつなげる「環」

「もみじ銀行の大黒^{だいこく}課長は、いつも声をかけてくれて、すぐに動いてくれるので心強く思っています。」大淵社長は以前、金融機関で働いていた経験もあるため、経営の計画立案をするときなど十分にお互いの意見を交わし、分かり合うことができていると感じるそうです。

「広島でも本物の抹茶を味わうことができるということをより多くの

人知ってもらうためにこれからも努力していきたいですね」と大淵社長は目を輝かせました。



Company profile

株式会社茶の環

【創業】1955年(お茶の駿河園)

【住所】広島県広島市中区紙屋町2丁目3-3

【ホームページ】

www.cha-no-wa.jp



「もみじ銀行大黒課長は細やかに相談に対応してくれるので、これからはしっかりとタッグを組んでいきたいですね」(左から大淵社長、もみじ銀行商工センター支店大黒課長)

熱産ヒート

北九州

(福岡県北九州市八幡東区枝光)

川口千恵子社長



1.主力商品である溶接歪取用高周波誘導加熱装置。2.社是である「共創・共生」。創業からの精神が受け継がれている。3.5.当社の設備・商品の一例。デモ機も多く用意しており、取引先はテストを行ったうえで購入を検討することができる。

熱を生み出す製品を開発している熱産ヒート。
お客さまと共に創り、
共に成長する「共創・共生」が社是。
創業以来の創造精神
(魅力の創造・人間関係の創造・需要の創造)は
今も大切に引き継がれています。

国内シェアは8割

主力商品は、溶接作業で使用する高周波誘導加熱装置。以前はヒーター原理の加熱装置を使用していましたが、装置の重量が重く、加熱にも時間がかかり、熟練した技術が必要でした。そこで熱産ヒートは、IHの原理となっている高周波を利用した、急速な加熱と容易な作業を可能とする製品を開発しました。装置の優秀さは折り紙つきで、国内の約8割のシェアを占めるまでになっています。

とりわけ、加熱作業に必要な昇温

スピードは、ヒーター式よりも約6倍も早くなり、工期の短縮にもつながります。

共に創り、共に成長する

川口千恵子社長の実父、正祐会長はもともとメーカーの営業マン。お客さまの求めている商品自体を一緒に開発するというビジネスに魅力を感じ、会社を設立したのです。千恵子社長は「一番大切なのは現場。幅広い専門知識ももちろん必要ですが、どういった環境で、どんな使い方をしているのか、そこを解決しようとする



4.社長の川口千恵子氏。「夢を持って働くことが大切」と強調する。6.高周波誘導加熱装置（壁面用）の作業風景。7.建造中の艦艇での作業風景。8.北九州銀行八幡中央支店の石田係長。「まずはどんな事でもご相談いただける信頼関係づくりが大事」と熱く語る。

「北九州銀行さんに広域技術マッチングフェア※への参加を勧めてもらい、実際に今後の研究開発のヒントに繋がる技術に数多く出会えました。実現するには多くの試行錯誤が必要ですが、とてもいい機会となりました」と語る川口社長。熱産ヒートは今後、主力商品をインドネシア等のアジアへ進出させたいと考えているそうです。

最近では、3Dプリンターを活用した開発に取り組んでいます。同じ電力で倍の能力を出す技術で、省エネにつながるそうです。3DCAD（3次元コンピューター設計）でできるのであればどんな形にも成型できるようになります。川口社長は「熱に着目した商品では誰にも負けない、これが当社の信念であり、強みです。社員には『夢を持とう』と言っており、研究開発の部門では、商品が売ればアイデア発案者に給料以外に手当てを支給する仕組みとしています」と、社員が高いモチベーションで働くことができる職場作りに注力しています。

活き活きと働ける会社で
あり続けるために

る姿勢が基本です」と話します。



Company profile

熱産ヒート株式会社

【創業】1975年

【住所】福岡県北九州市八幡東区枝光1777-10

【ホームページ】

www.nessan.co.jp



「北九州銀行八幡中央支店さんはコミュニケーション能力の高い方ばかりでいつも助かっています」と川口社長。（左から経理の棚町さん、川口社長、北九州銀行八幡中央支店石田係長）

※広域技術ビジネスマッチングフェア：山口フィナンシャルグループのグループ企業である地方創生を専門に手がけるコンサルティング会社「YMF G ZONE プランニング」が企画。山口県・広島県・福岡県に拠点を持つ事業者が自由に参加でき、大学の研究室や電力会社、大手メーカーなど専門技術を持った機関と、技術に特化したマッチングを行うイベント。